

ヤスミン・シルヴァ 核兵器を超えて（アメリカ）

今日ご参加のみなさんに私の活動を紹介することができてうれしく思います。「核兵器を超えて」の一員として私は日々、アメリカでの核兵器体系の実態を取り上げ、それらが他の抑圧体制とどう関連しているかに焦点を当てて活動しています。今回のオンライン世界大会は、世界中の様々なたたかひの合流点に光を当てたすばらしいものでした。私の目標は、政府内の密室政治で作られ、かつては権力と影響力を持つスーツを着た人たちだけのために温存されてきた支配体制を取り上げ、民主化し、最終的には強力な草の根運動の構築によってそれを廃止することです。この変革は可能であるだけでなく必要不可欠だと考えているので、私たちはみな運命共同体なのです。

この集会は、いろいろな点で、特に、私も含め人々を世界中から結集していて、すばらしいと思います。ここで少し、私自身が何者であるか、私の考え方がどうやって形成されたのかについてお話しします。そのいくつかは、みなさんと重なる部分があるかもしれませんが。まず、私は若者です。私たちの世代は、核戦争の脅威のもとで育ってきませんでした。第2に、私は女性です。女性はいまでも、国家の政策に関わる重要な議論からおおむね排除されています。第3に、私は移民の娘です。日常的に移民社会を具体的に苦しめている問題は、核戦争のような抽象的な問題よりも優先されがちです。このアイデンティティーのゆえに私は、アメリカで起こっている正義を求めるたたかひの様々な面で先頭に立ってきました。では、権力の側が選挙権を奪おうと狙う多くのグループに属する私のような者は、どのように反撃すべきなのでしょうか？

フェミニストたちは、ジェンダーに基づく暴力と不平等に対してたたかひ続けています。もし最近の選挙と人々の抗議行動、そして、この集会が何らかの兆しを示しているとするなら、私たちの世代は、確立された体制に挑戦する手段としての集団的行動の力を理解し始めているのです。あらゆる背景を持つ人々が、世界を移民や難民にとって安全な場所にするために、そして、どの国で生まれたかによって、その人がどこで受け入れられ、あるいはどんな行動が許されるのかを決定されることがないようにたたかっています。これらのたたかひのすべてが、私自身に対して問うています。なぜ私は核兵器をなくすという大変な課題に尽力しているのでしょうか？

私のアイデンティティーと同様、核体系の存在は、これらのたたかひとも関連しています。核兵器は、ジェンダー的視点から議論されているからです。核兵器の軍事的側面からの議論はしばしば、男らしさの尺度にされてきました。核兵器を持っている国々は男性的で、潜在的標的とされる国々は女性的とみなされ、これはジェンダーに基づく暴力の枠組みの延長線上にあります。保有国が持つ核体系は、非民主的であり、

(核発射の) 決定をおこなう能力を備えていないとみなされる者たちに代わって一方的に作動するように設計されています。これは私のような政治に関わっている若者がよく耳にすることです。核兵器の使用と必要性を支持する議論は、外国人を非人間的に扱い、彼らの苦しみを矮小化することを基礎に展開されています。このような発言は、移民や難民排斥の感情の問題の中でよく耳にします。

核体系の効果的な廃棄は、それを生み出した社会構造に関連する問題にとりくまなければ実現できません。このことを認識することが、極めて重要です。私たちの運動は孤立したサイロの中に存在していません。核兵器はとても恐ろしいものですが、大きな抑圧体制の一つの現れにすぎません。そして、その影響がある所はどこであっても、この抑圧体制に対してたたかわなければなりません。私たちは、今、これを変えるために力を合わせ、方法を見つけようと集まっているのです。

新型コロナウイルス危機の下、私たちの運動が結びつくことが、かつてなく重要になっています。アメリカでは、この共同が今、これまでになく広がっています。私たちの団体「核兵器を超えて」では、核問題の活動だけでなく、医療、労働、移民の権利などの課題にも力を入れてきました。アメリカだけでなく、マーシャル諸島などでは、核実験場、採掘場、貯蔵場所の近くに住む人々は、様々な健康被害に苦しんでいます。この状況にいる彼らは、COVID-19により感染しやすいのです。また、これらの場所では、水道水を利用できないなど、インフラが不十分です。これもパンデミックにおいては死活問題です。こうした最も弱い人々を守らなければなりません。私たちは、活動を通じてこの課題にとりくんでいますが、同時に、核兵器はたとえ使われなくても危険であることを、人々に教えています。

しかし、目標を見失ってはなりません。こうしたコミュニティでの安全を求める切実なたたかいを励まし支援する一方で、私たちはアメリカ連邦政府に対して、先制不使用など、常識的な核政策を取るよう迫り、戦争ではなく外交を優先させ、重要な条約の維持や復帰をと求めています。この活動において、海外の団体と協力することは重要な意味を持っています。なぜなら、アメリカ政府は、核兵器を持っていない他の国々は、アメリカに自分たちを守ってほしいのだ、とよく言うからです。私たちはこの神話に反撃しなければなりません。この集会で、また分科会の議論を通じて、こうした活動を発展させるための基礎を築きましょう。みなさん、次回の青年集会への参加もよろしくお願ひします。